

(様式 1)

令和 4 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立菊川小学校
校長名	柿沼 広美

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・昨年度の課題であった理科は、第 4～6 学年の全ての観点で全国平均を上回った。区の推進するふりかえりシートや復習テストの実施が成果につながった。・第 5 学年は、昨年度社会・算数・理科で全国平均を下回る観点があったが、今年度は社会以外の教科は全観点で全国平均を上回った。・第 2～4 学年は全教科の全観点において全国平均を上回った。	<ul style="list-style-type: none">・第 5、6 学年の社会の思考・判断・表現において第 5 学年 2.6 ポイント第 6 学年 2.3 ポイント下回る結果となった。とくに資料の読み取りに課題がある。・どの学年にも、最後の方の問題が未回答の児童がいる。時間配分の仕方を教えるなどし、テスト慣れさせる必要がある。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・「ノートの取り方について、自分なりの工夫をしていますか」という質問では、第 6 学年は 7 割以上が「工夫している」と回答しており、特に「自分流のこだわりがある」と回答している児童が、全国平均を 7.4 ポイント上回っている。学校として行っているノート指導が積み重なってきていると思われる。・「授業や日常生活で不思議だな、どうしてだろうと思ったことを調べていますか」という質問では「いつも調べている」「だいたい調べている」と回答した児童は学年が上がるにつれてポイントも上がり、学習ツールとしてタブレット端末を使うことに慣れてきていると思われる。・第 5・6 学年では「タブレット端末やパソコンを使って話し合い活動をする」と話し合いが深まる」という質問に 7 割～8 割の児童が肯定的に回答しており、授業での話し合い活動に効果的に活用できたと思われる。	<ul style="list-style-type: none">・第 5・6 学年において「最近学校の勉強が難しくなったな、と感じることがありますか」という質問では約 7 割が「理解している」という回答する一方、「分からないままのことが多い」と回答している児童が全国平均より約 3.4 ポイント上回っている。「学校の授業の予習や復習をしていますか」という質問で、「まったくしていない」という回答でも全国平均より約 3.4 ポイント上回っており、家庭学習の内容や方法の検討や、実態に合わせた実施を推進していく必要がある。・読書量に関して「一週間に何冊くらい本を読みますか」という質問で、第 2 学年は「7 冊より多い」と「1～2 冊」との回答で 2 極化している。第 3・4 学年では「1 冊くらい」「2～3 冊」と同じくらい「まったく読まない」と回答した児童が多く、全国平均より第 3 学年は 8.5 ポイント、第 4 学年は 8.9 ポイント上回っている。図書館教育部とも連携し、環境整備や読書推進を進めていく。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・昨年度の課題であった、デジタルツールの効果的な活用法について、教員間で共通理解することができた。GIGA スクール推進委員会の教員を中心に、タブレット機器等の使い方の研修を行ったことで、各学年の教員がロイロノート等を効果的に使用することができ、児童がより多くの他者の考えに触れることにつながった。	・昨年度からの課題である、自分の考えに自信をもって発表できる児童が少ないという点については、引き続き改善が必要である。学習活動をしっかり振り返らせたり、児童同士の協働を通して考えを広げる経験をさせたりする。課題に対して自分なりの方法で解決していくことで、自分の考えに自信をもたせていきたい。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 校内研究の充実

今年度の本校の研究主題は「進んで思いや考えを伝え合い、思考を深める児童の育成」とし、国語科の読む力を中心として学力の向上を目指している。叙述から自分の考えの根拠を見付ける経験を積み重ねることで、登場人物の思いを読み取ったり、筆者の考えを理解したりできるようになると考える。校内研究を軸として、各教師が効果的な指導法の検討・実践・検証を行い、全教員の指導力向上を図る。

(2) 復習とふり返りのある学習計画

児童の実態に即した学習計画を立てる。教師がゆとりをもって学習を進め、単元の終わりに復習する時間や、発展問題にじっくり向き合う時間を作るようにする。そのためには、学年内で児童の理解度などを相談し、学習内容の軽重の統一を図る。また、ゆとりをもって学習を進めることで、アウトプットの時間を設けることができる。児童が自分の言葉で学習内容をふり返ったり、友達に説明したりすることで、どれだけ理解できたのかを客観的に把握することができる。そのような時間を意図的に作り、児童が自信をもって学習に取り組めるようになることを目指す。

(3) 家庭学習の啓発

主体的な学習を目指し、家庭学習の啓発を進める。ミライシードや教科書を活用した学習について、どのような内容をどの程度家庭で取り組めばよいのか、児童へ段階的な指導ができるよう、教員間の意識の統一を図る。それに基づいた指導を授業でも取り入れることで、児童が進んで学習に取り組めるようになることを目指す。

3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・全学年全教科で全国の平均正答率を上回る結果を出す。
- ・全学年D・E層の割合を20%以下にする。